

[ここに入力]

与那国島には60度というアルコールの度数が高い泡盛がありますが、今回の訪問で78度というとてつもない度数の高い泡盛に出会いました。新型コロナの消毒にも使えるということで、七転び八起の泡盛だそうです。（粕谷和夫）

紅葉台



新聞

第76号

2023年
5月6日

発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記

沖縄の鳥 特集

3月27日から31日まで与那国島と石垣島に鳥見に行ってきた。石垣島ではカムリワシに出迎えてもらいました！！



石垣島のカムリワシ

石垣島の田んぼに降りたカムリワシです。カエルのような獲物を食べているところです。今回の与那国島、石垣島では、ほかにツバメドリ、カラムドリ、ホシムドリ、アカガシラサギ、ズグロミゾゴイ、インドハッカ、ベニバト等の珍しい鳥に出会いました。

与那国島のギンムドリ

50羽以上の群れが小学校の校庭に降りて採取していました。赤いくちバシが似合います。



与那国島のホオジロハクセキレイ

田んぼに多数入って採取していました。とても可愛いです。他にタイワンハクセキレイ、シベリアハクセキレイも混ざっていました。



与那国島の馬とツメナガセキレイ



放牧されている馬の口元に近づくツメナガセキレイです。多分、馬の口元に集まってくる小さな虫を狙っているのだと思います。

与那国島のセイタカシギ

長い赤い脚（足）がとてもスマートです。田植え直後の田んぼで餌を探していました。この写真は、2羽ですが、全部で20羽以上いました



石垣島のムラサキサギ

石垣島の田んぼには、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギがそろっていましたが、ムラサキサギが異彩を放っていました。



石垣島のアマサギ

石垣島の田んぼには多数のアマサギがいました。放牧されている牛の周りにも群がっていました。

【写真は、拡大してご覧ください】



映画鑑賞『妖怪の孫』

阿部 ひろみ

この度、内山雅人監督は前作『パンケーキを毒味する』に続き、『妖怪の孫』を公開しました。歴代最長在任を誇った、安倍政権の検証を115分にまとめた政治ドキュメンタリー映画です。

この映画のタイトルは、故安倍晋三氏の祖父岸信介氏の異名「昭和の妖怪」の孫からとられたものです。故安倍晋三氏の生い立ちから始まり、氏は一般企業経験も経て政治家の三世としていよいよ政界入りを果たした後は、祖父の悲願であった「日本国憲法の改憲」という目標を掲げ、さらに積極的な外交政策を進めながら、日本経済の発展には「3本の矢」と言うキャッチフレーズで推し進められた長期政権 8年8ヶ月の記録です。

当然のことながら製作者の意図は徹頭徹尾明快な立ち位置にありました。わけても私が印象に残ったのは、個人の特定は護られていたものの身を以って告発した現役官僚の方々の様子です。

巨大な暗黙の圧力に戸惑いや自己矛盾を抱えながら黙々と仕事を続けなければならない日常が、とつとつと語られていました。

こうした映画の内容においては、観客の中でもその是非が大きく分かれることは当然あると思います。

民主主義は常に穏やかな見直しや変動を繰り返しながら成長していくものだと言われます。

大切なのは、諦めや無関心で終わらせないことではないでしょうか。私たち国民は、参政権の中でも私たち自身で為政者を選ぶという、直接的で有効な手段—選挙権—があります。社会の様々な動向に一層関心をもって、私の1票にしっかりと責任をもって投じること。そしてそれらが投票率の上昇に繋がるよう願わずにはられません。

この映画でも、「では、あなたはどのように考えますか？」と問いかけています。

1) 本来憲法とは国民の安心安全な生活を護るために政治家に課せられている法律。主権は国民にあり。

♥ 沖縄の鳥 感想

カムリワシというと、ボクシングの具志堅用高を思い出しますね。ツメナガセキレイが馬の口元にやって来ているのは面白いです。人にも良く近づいてきます。ツメナガという名前から、爪が長いセキレイのようです。ムラサキサギは、首が長くまるで蛇のように見えます。珍しい鳥です。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。